

中学生向け教育支援プログラム

「テクノロジーを使って 地域の困りごとを解決しよう」 ご紹介資料

富士通株式会社 コミュニティ推進室

1. 学校教育を取り巻く課題認識.....	3
2. 富士通が教育支援活動を通じて目指すところ.....	4
3. 「テクノロジーを使って地域の困りごとを解決しよう」について.....	5
3-1. プログラムの流れ	
3-2. 使用教材について	
4. プログラム導入により期待される効果.....	13
5. プログラム実施までの流れ.....	14
6. 申し込み・問い合わせ先.....	15

1. 学校教育を取り巻く課題認識

教育環境の変化



デジタル社会への適応

急速に進展するデジタル社会において、子どもたちはテクノロジーとともに生きる未来を避けて通ることができない。そのため、将来の社会参画に向けて、早期からの体系的な情報教育の導入が不可欠



進化するAIとともに生きる力の育成

AI技術の進化が加速する現代において、AIを効果的に活用するためには、「社会課題を発見し、問いを立て、解決に導く力」といった人間ならではの力が、これまで以上に重要性を増している



地域とつながる探究学習への期待

地域を題材にした探究学習への期待は高い一方で、学校だけでは地域との接点づくりや学習機会の確保が難しく、外部との連携を求める声がある

教育現場の声



テクノロジー分野の教育体制

情報教育の重要性が今後ますます高まる中、テクノロジー分野の知見を求める声がある



従来の枠を超えた「開かれた学び」

学校の授業に加え、企業や地域社会と連携した学びは、子どもたちの学びをより深める機会となる。近年では、学校の枠を越えて社会とのつながりを実感できる学びを求める声も高まっている



教育現場における負担の増大

多様な学習機会の提供が進む一方で、授業の質にばらつきが生じやすくなり、教員の負担も増加している。特に変化の激しいテクノロジー分野においては、学校単独での対応には限界がある

2. 富士通が教育支援活動を通じて目指すところ

富士通は、テクノロジー企業として長年培ってきた知見を活かし、ICTと企業で重視される「課題起点」の思考を融合させた、実践的なプログラムを提供します。

子どもたちには探求的な学びの機会を、教職員には体系化されたプログラムによる業務負担の軽減を実現し、双方にとって持続可能で価値ある教育環境の創出を目指します。

「未来の社会とビジネスを支える“人材”を創出」

- ◆ 身近な社会課題をテーマにすることで、子どもたちは自ら問いを立て、解決へと導く力を育みます
- ◆ 富士通の事例を通じて、テクノロジーと社会の関わりを学び、興味・関心を高めます
- ◆ 企業の専門的な知見に触れることで、子どもたちの視野が広がり、社会に貢献する多様な仕事への理解とキャリア観を育みます

3. テクノロジーを使って地域の困りごとを解決しよう

全国の中学生を対象に富士通が実施する**探究学習型の教育支援プログラム**です。

対象	中学生
授業形態	オンライン（エリアによっては出前授業も承ります。個別にご相談ください。）
授業時間	4時限 ※1時限：50分間を想定（通常授業の時間割）
募集期間	通年 ※実施2か月前までに申し込みください
実施校数	制限なし

①共感 → ②課題の構造化 → ③発想・改善 → ④未来像の提案の流れで、地域課題を「自分事」として捉え、テクノロジーと地域資源を活かした解決策を考えます。最終回は富士通社員が参加し、発想を認め、考えを広げる対話を行います。

<本プログラムが提供するもの>

- ・ 身の周りのテクノロジーについて学び、テクノロジーを身近に感じる機会の提供
- ・ 身の周りの出来事から地域の課題を見つけ出し、正しい問いを立てる力の育成
- ・ 自分で立てた問いに対して、解決する方法を考える力の育成
- ・ 生徒同士や周りの大人との会話による、意見の違いを知るきっかけづくり
- ・ 企業で働く大人と会話することで、さまざまな仕事があることを知るきっかけづくり

※本プログラムのコンテンツは、ベネッセ社が提供するミライシード・オクリンクプラス上でもご使用いただけます。

<https://bso.benesse.ne.jp/miraisseed/products/okulinkplus/index.html>

3-1. プログラムの流れ（全体像）

本プログラムは、**全4時限**で構成されています。1～3時限目は、提供教材と指導案を活用して、担当の先生から授業を行います。

4時限目は、生徒たちが富士通社員に各グループのアイデアを発表し、フィードバックを受けます。



1時限目

教員

共感を起点に
「課題の種」を見つける

- ・ 困っている人の立場に立って考え、その人の困りごとから地域全体へ視野を広げる
- ・ 企業事例を通して「困りごと × 地域資源 × テクノロジー」の考え方を学ぶ
- ・ 自分たちの地域にある課題の“種”を見つける



2時限目

教員

デザイン思考で
解決策を考える

- ・ 「共感 → 言語化 → 発想」の**デザインのプロセス**を体験
- ・ グループでどんな人が何に困り、なぜ困っているのかを深掘りする
- ・ 地域資源とテクノロジーを掛け合わせ、解決アイデアを考える



3時限目

教員

アイデアを磨き
「未来の姿」を提案する

- ・ 解決アイデアをより良いものに改善し、社会で実装される様子を表現する
- ・ テクノロジーと地域資源を掛け合わせ、「**地域の人たちが幸せになれる未来**」を描く



4時限目

富士通

アイデアを富士通の
社員に発表しよう

- ・ **富士通社員**との対話やフィードバックを通じて、他者に意見を伝える自信を育みながら、アイデアが実社会で活用されるイメージを持つ

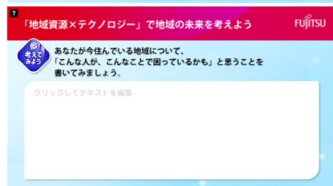
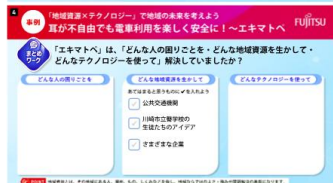
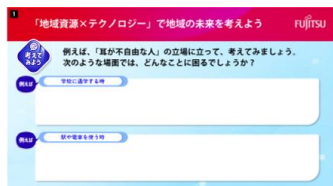
3-1. プログラムの流れ__1時限目 先生による授業



1時限目

身近なテクノロジーについて理解し、テクノロジーを使って社会課題を解決した事例などを学習します。

※使用する教材：①提供教材（1時限目） / ②個人・グループ用ワークシート



時間	トピック	学習内容の要点
5分	導入・単元の見通し	3時間のゴール共有（地域資源×テクノロジーで課題解決）
35分	共感①：立場理解 事例理解	「耳がきこえない・きこえにくい人」の視点で通学路・駅の困りごとを想像 エキマトペ／沖縄県立図書館の事例から課題解決の構造を理解
10分	地域の困りごと探索	自分たちの身近な地域の困りごとを洗い出す
計50分		

3-1. プログラムの流れ__2時限目 先生による授業



2時限目

デザイン思考の手法を活用して対象者への理解を深め、地域資源とテクノロジーを活用した課題解決のアイデアを協働的に検討します。

※使用する教材：①提供教材（2時限目） / ②個人・グループ用ワークシート



時間c	トピック	学習内容の要点
5分	導入	デザイン思考（共感・言語化・発想）の考え方を確認
40分	共感②・言語化 発想	グループで対象者の背景・気持ち・本当の困り感を深掘り 地域資源（人・場所等）×テクノロジー（AI・通信等）でアイデア出し
5分	整理	出たアイデアを残し、次時への見通しを持つ
計50分		

3-1. プログラムの流れ__3時限目 先生による授業



3時限目

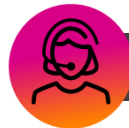
グループで企画をブラッシュアップし、解決後の人や地域の変化を具体化してプロジェクト名を設定するとともに、学びを今後の生活や課題解決に生かす視点を育みます。

※使用する教材：①提供教材（3時限目）／②個人・グループ用ワークシート／③発表用ワークシート



時間	トピック	学習内容の要点
5分	導入	前時までのアイデアを振り返り、本時のゴール確認
40分	収束・改善	グループでアイデアを一つに絞り、より良く改善
	未来の姿の具体化	解決後の「人の変化」「地域の変化」を具体化し、プロジェクト名設定
5分	振り返り	学びを今後の生活・課題解決にどう生かすかを考える
計50分		

3-1. プログラムの流れ__4時限目 富士通とのセッション



4時限目 富士通とのセッション

各グループで考えた解決アイデアを、講師である富士通社員に順番に発表。
実例や個々の社員の経験を踏まえて、フィードバックやアドバイスもらいます。社員への自由な質問も受け付けます。

※使用する教材： ③発表用ワークシート

【オンライン授業のイメージ】



時間	トピック	学習内容の要点
5分	導入	挨拶、講師自己紹介
5分	準備	(必要に応じて) 各グループの発表準備・練習
30分	発表	各グループの発表 社員からのコメント
10分	まとめ	質疑応答・ 講師から生徒に向けたメッセージ
計50分		

3-2. 使用教材について

以下の資料および教材を用いて、授業を進めていただきます。

①

【先生用指導案】

プログラム全体、事前授業の進め方

②

【提供教材スライド】

1-3時限目で使用する教材スライド

③

【個人・グループ用ワークシート】

1-3時限目で使用

④

【発表用ワークシート】

4時限目の授業で使用

総合的な学習の時間 学習指導案

1. 単元名 「地域資源×テクノロジー」で地域の未来を考えよう

2. 単元の目標

図っている人への生活を支える課題を解決するために、地域資源とテクノロジーを活用した解決策を創造的かつ発見的に設計する中で、物事を認識しながらよりよい社会の在り方を考え、表現することができる。

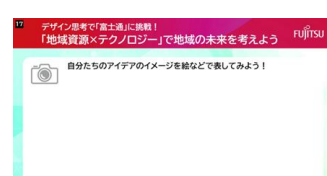
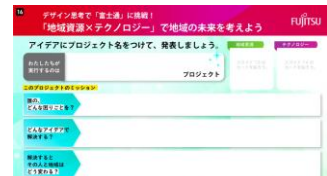
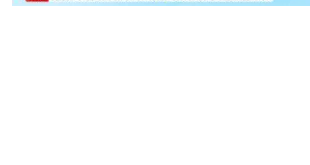
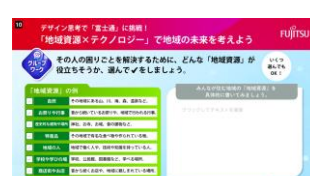
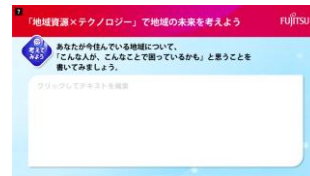
3. 単元の評価目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
「図がきこえない・きこえない人」などの困りごとに対し、課題解決の「地域資源」とAIなどの「テクノロジー」を組み合わせた解決策を考案し、表現している。	「図がきこえない・きこえない人」などの困りごとに対し、課題解決の「地域資源」とAIなどの「テクノロジー」を組み合わせた解決策を考案し、表現している。	「図がきこえない・きこえない人」などの困りごとに対し、課題解決の「地域資源」とAIなどの「テクノロジー」を組み合わせた解決策を考案し、表現している。

4. 単元の評価計画

評価	ねらい	主な内容
1	図っている人への生活に支障をきたす困りごとを、地域資源やテクノロジーの活用によって解決していることを理解する。	「図がきこえない・きこえない人」の困りごと。困りごとを解決するための「地域資源」や「テクノロジー」の活用。困りごとを解決するための「地域資源」や「テクノロジー」の活用。
2	「デザイン思考」を用いて、地域の困りごとを解決するためのアイデアを考案し、表現している。	「デザイン思考」を用いて、地域の困りごとを解決するためのアイデアを考案し、表現している。
3	地域の困りごとを解決するためのアイデアを考案し、表現している。	地域の困りごとを解決するためのアイデアを考案し、表現している。

デザインシート-1



(ご参考) ワークシートのテンプレート

発表用ワークシート

複数のワークシートを用意しています。3時限目までに各グループで作成した以下の2枚のワークシートを、4時限目の発表で使用いただきます。事前（4時限目の**3営業日前まで**）に富士通事務局に共有してください。

16 デザイン思考で「富士通」に挑戦！
「地域資源×テクノロジー」で地域の未来を考えよう FUJITSU

アイデアにプロジェクト名をつけて、発表しましょう。

わたしたちが
実行するのは

プロジェクト

地域資源

テクノロジー

スライド13の
カードを貼ろう。

スライド14の
カードを貼ろう。

このプロジェクトのミッション

誰の、
どんな困りごとを？

どんなアイデアで
解決する？

解決すると
その人と地域は
どう変わる？

17 デザイン思考で「富士通」に挑戦！
「地域資源×テクノロジー」で地域の未来を考えよう FUJITSU

自分たちのアイデアのイメージを絵などで表してみよう！

© Fujitsu Limited

4. プログラム導入により期待される効果

自己表現力の向上

(自分の考えやアイデアを言葉にし、他者に伝える力)

普段関わる機会の少ない、企業で働く大人との対話を通して、子どもたちが自分の意見を伝える自信を高めることを目指します。「働くこと」「将来」を考えるきっかけを提供し、自分の未来の選択肢を広げることを目指します。

課題解決思考の育成

(困っている人への共感を起点に、背景を考え、解決策を構想する力)

身近な地域の困りごとについて、「なぜその課題が起きているのか」「どうすれば解決できるのか」を考える機会を提供します。テクノロジーを活用したアイデアづくりを通じて、多様な視点から課題を捉え、自分なりの解決策を考える力を育みます。

地域課題の発見と理解

(身近な地域にある困りごとを自分事として捉える力)

地域にはさまざまな課題や困りごとがあることを知り、それらが自分たちの暮らしとどのようにつながっているのかを考えます。地域で暮らす人々の視点に立つことで、社会や地域への関心を高めます。

テクノロジーの理解

(人の幸せにつなげるためにテクノロジーを活用する視点)

普段は意識しにくい、身の回りで使われているテクノロジーを知ることから学びを始めます。テクノロジーが自分たちの生活や地域にどのように役立っているのかを理解し、関心を高めます。

6. プログラム実施までの流れ

プログラム実施希望日の約2カ月以上前にお申込みください。
お申込み後、富士通事務局とプログラム内容詳細や日程についてお打合せをします。

約2カ月以上前

約2カ月前

約1～4週間前

前日まで

当日

学校様

問い合わせ・申し込み



・WEBフォームより候補日を入力の上申し込み

富士通事務局と 打合せ



・オンライン打合せにて内容と実施日を確認

学校様にて 事前授業実施



・提供教材を使用して学校様で事前授業を実施

テスト通信



・富士通事務局とテスト通信を行い、授業本番の流れを最終確認

プログラム 本番



・社員講師がオンライン授業を実施

6. 申し込み・問い合わせ先

本プログラムへのお申し込み、お問い合わせにつきましては、以下のURLからご登録をお願いします。
別途、事務局よりご連絡させていただきます。

富士通株式会社 教育支援プログラム事務局

[富士通株式会社の教育支援プログラム_問い合わせ・申し込みフォーム](#)

QRコードはこちら→



Thank you

